

「2020 オリンピック・パラリンピック東京開催決定」

講師：宮崎明世（筑波大学准教授・筑波大学附属高校教諭）



2013年9月11日、筑波大学附属高校にて、CORE 運営委員の宮崎明世教諭がオリンピック・パラリンピックの東京招致決定に関するテーマで授業を展開しました。生徒は開催地決定へのプロセスやその背景を学び、競技会を開催することによるメリットやデメリットに関して考えを深めました。

授業のはじめ、宮崎教諭は最終候補であった3都市（マドリード、イスタンブール、東京）の特徴やアピールポイント、課題点を説明しました。そして、IOC 総会におけるプレゼンテーションや投票について紹介し、背景知識を整理した上で、東京でオリンピック・パラリンピックが開催されることの影響について生徒に発問しました。

メリットとして挙げられたのは、「東京の国際的なイメージが向上する」、「世界一のプレーを間近でみることができる」、「国際交流の機会が増える」などで、またハード面で様々な施設が整備されることも話されました。一方、デメリットには、「人口密集が進む」、「復興が遅れるかもしれない」という意見が出され、それらに対する対策を考える必要があることを確認しました。



そして、授業の最後には7年後の2020年をイメージし、オリンピック・パラリンピックにどう関わりたいかを考えました。その時には23-24歳となっている生徒たちの中には「国際的なイベントに積極的に参加したい」、「ボランティアとして関わりたい」、そして「ラグビーの日本代表選手として活躍したい」など、様々な希望が膨らんでいました。

なお、本授業の様子、教諭と生徒のインタビューは同日夜にNHKで放送されました。